マーケットキーワード

SMAM

（No.1,492）〈マーケットレポートNo.3,965〉

情報提供資料

2015年1月13日

今日のキーワード「未（ひつじ）年生まれ」と「新成人」（日本）

総務省は国勢調査の結果やその他の人口関連統計から、毎年1月1日時点の「新成人」と「十二支別（今年は未年）」の人口を推計して発表しています。「新成人」は前年の1月から12月に20歳を迎えた人です。この統計は1968年（昭和43年）に始まり今年で48年目となります。

ポイント1 未（ひつじ）年生まれは1,007万人で十二支中9番目

少子化対策が今後の重要課題

■1月1日現在における未年生まれの人口は 1,007万人で総人口1億2,702万人に占める割合は7.9%となっています。十二支の中で最も多いのが丑（うし）年生まれで1,122万人、最も少ないのが酉（とり）年生まれで961万人となっています。未（ひつじ）年は9番目となります。

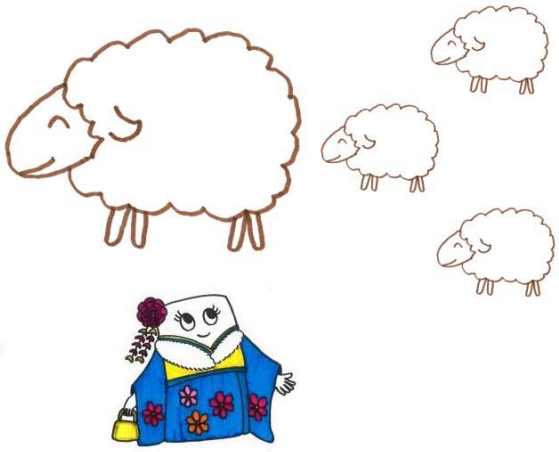
■未年生まれの人口を年齢別に見ると、今年48歳が188万人で最も多く、12歳が111万人と最も少なくなっています。12歳は48歳の約6割の水準と世代間の人口構成格差が大きく、少子化対策が重要課題となっています。

ポイント2 2015年の「新成人」は21年ぶりに増加

第二次ベビーブーム世代の子供たちが成人に

■今年の「新成人」は前年比＋5万人の126万人と21年ぶりに増加しました。第二次ベビーブーム世代（今年41歳～44歳）の子供たちが成人を迎えたことなどが影響していると見られます。

■「新成人」の人口は、1970年（246万人）にピークとなってその後減少し、第二次ベビーブーム世代が成人を迎えた1994年（207万人）前後に一旦持ち直しましたが、1995年以降再び減少傾向となりました。



今後の展開 人口動態として、少子化対策を打つ良いタイミング

■2048年には人口は1億人を下回る見通し

日本の人口は2005年に初めて減少しました。その後減少傾向が続き、2014年は100万1,000人の出生数に対し死亡数は126万9,000人となり、26万8,000人の人口減少となりました。総務省では2048年には人口は1億人を下回ると推定しており、少子化対策は緊急の課題となっています。

■今後の少子化対策に期待

アベノミクスでは少子化対策は重要施策のひとつとなっています。第二次ベビーブーム世代の子供達が親になる年齢に差し掛かっていることから、人口動態として少子化対策を打つ良いタイミングと思われます。保育施設の拡充などにより、安心して子供を産み育てることができる環境作りが期待されます。

ここもチェック！
2015年01月05日　宅森昭吉に聞く「2015年の景気」（日本）
2014年12月25日　2014年を振り返るキーワード　「消費税」率引き上げと再引き上げ延期（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。